

2024年度（令和6年度）事業計画

日本世論調査協会は設立の目的に従って、世論調査・社会調査技術の向上ならびに各種調査に対する社会の理解を深めるため、調査研究や研究講演会の開催、調査に関わる刊行物の発行、国内外の関係諸団体との連携を進める。

1. 協会の充実を図る

協会の組織と活動の充実を図るために、世論調査・社会調査の分野に携わる人材を広く募り、協会への加入を勧め、協会活動の円滑な運営を図る。

2. 調査の権威と信頼を向上させる広報を行う

世論調査・社会調査の正確性と公正性を確保して各種調査の信頼性と権威を高めるため、協会が定める「倫理綱領」などの国内外への周知徹底を図る。そのために、ホームページ等を恒常的に整備して広報活動を進める。GHQのもとで日本の世論調査が本格的に始動した時期の資料のアーカイブを広く閲覧に供することを旨とするともに、有用な資料を発掘し、研究者の利便を図る。

3. 調査および調査方法についての研究を行う

調査の計画と設計、標本抽出、調査の実施とデータ収集、データ分析等についての適正かつ効果的な方法、さらに収集された調査データの保存・再利用について広く研究を行い、その成果を社会に普及する。協会創設70周年記念事業として、5年度は4年度に引き続き公募テーマによる第2回の共同調査を企画し、1席、2席の当選者が決定。6年度は当選作の実査に向けて作業を進める。

4. 海外の世論調査組織・機関との連携を図る

世界世論調査学会等、世界各国の調査研究機関ならびに研究者と密接な連携を確保し、わが国の調査・研究等を海外に紹介するとともに、海外の調査・研究等について広く情報を収集する。特に、世界世論調査協会アジア太平洋分科会（WAPOR Asia Pacific=WAP）を7年度に東京で開催すべく、統計数理研究所や各大学など諸機関と協力態勢について協議を進める。

5. 研究大会・研究会・講演会等の開催を行う

世論調査・社会調査に関わる知識と技術を向上して社会に普及するために、研究大会を開催して公開する。さらに、世論調査・社会調査に携わる人材を募り、研究会・講演会を適宜開催する。

6. 会報を発行する

協会報『よろん』を年2回発行し、協会の活動、研究・講演会等の成果や国内外の調査に関わる情報・資料を収載して会員に提供する。『よろん』の電子化を維持し人々の利用に供する。

7. 世論調査・社会調査に影響する諸課題へ対応する

個人情報保護法、住民基本台帳法、選挙人名簿の閲覧制度、ビッグデータの収集と利用の広がりなどを踏まえ、各種データの保護・公開・利用など、世論調査・社会調査に関わる法・制度・規制について検討し、正確で公正な世論調査・社会調査を行うための環境整備に努める。

8. 公益財団法人を運営するための環境の整備を図る

公益財団法人としての適切な運営のために、規程・規則・手続きなどの組織整備を行い、健全で安定した長期的な財政運営を継続して実施する。